

就職編

就職か？進学か？

就職なのか、進学なのかを選ぶときに大切なのは

①何に興味があるのか ②どんなことなら出来そうか ③どんな知識や経験を積みたいのかの3つから考えましょう。仕事によっては進学して取得した資格や免許がないと就職出来ないこともあります。

自分の個性に適した職種を選ぶためには!!

1. 自分の能力や適性を知る

(1) 健康と身体条件

どんな仕事につく場合でも健康は第一条件です。これまでの学生生活から、通勤時間や労働時間など長時間の職場での生活へと生活が大きく変わります。まずこの変化に耐えなければなりません。また、仕事がどのような身体条件を必要としているかを考えましょう。

(2) 能力

仕事を覚え能力を高め、その仕事に熟達してゆく過程で能力が大きな働きをします。また高度な能力を必要とする職業（例えば研究員、システムエンジニア、設計技師等）ではいくらその仕事に興味があっても、能力が低ければその仕事を遂行してゆくことが困難です。自分の能力の優れているところ、弱いところを知っておくことが必要です。教科の成績、職業適性検査の結果なども能力を知る手掛かりになります。

(3) 職業への興味

職業に興味があれば仕事をするとき意欲を持って能力を発揮することができるし、それが生きがいにもつながってきます。自分が興味のもてる職業を選ぶことは非常に大切なことです。どのような学科や作業が好きなのか、どんな仕事がやりたいか、やりたいと思う職業の作業内容をよく調べて、その作業に興味をもてるか考えてみましょう。

(4) 性格

自分の性格をとらえることはなかなか難しいことですが、家族や学校の先生、親しい友達など多くの人の意見を聞いたり、自分のいろいろな場面での行動を考えてみると性格や特徴がわかってくると思います。その性格を活かせる仕事なのか、考えてみましょう。

2. 職業と企業を決めるときの方法

(1) 企業の選び方

自分の能力・適性・興味・性格などよく考え、求人票・入社案内などよく調べて、労働条件規模などを総合的に判断して積極的に選びましょう。また、その際、家族の意向・担任の先生や先輩の意見などにもよく耳を傾けましょう。

(2) 求人票

新しい求人票は7月1日以降にならないと送付されませんが、昨年度のものが進路室にあるので、研究しておきましょう。求人票の項目のうち、どれを優先させるかは人により異なります。まず、職種・業種を基準に自分の希望する所をいくつか選び出し、次に自分にとって大切な条件（通勤可能なところ、賃金の高いところなど）について、それぞれの項目を比較検討します。

(3) 県内就職と県外就職

県内の事業所へ就職する場合は事業所（職場）についてよく知ることができるし、家庭から通勤することが多いので家庭の方も安心です。しかし、県内だと職種が限られてくることもあり、就職進学できる条件のそなわった事業所は県外に多いので、毎年多数の高等学校卒業者が県外へ就職しています。県外で就職する場合は、事業所について十分に調査検討して、家庭や進路部の先生とよく相談して決めましょう。

3. 応募手続きについて

(1) 提出願書

① 本人が準備する書類

1. 履歴書（写真添付） 2. 就職申込書（保護者印が必要です。）

② 学校が準備する書類

1. 調査書（進路部&担任に申し込むと、学級担任が作成します。）

※ 調査書の作成依頼はお早めに！！

2. 紹介書（担当係が作成します。）

(2) 履歴書の書き方

履歴書は、みなさんを企業に紹介する最初のチャンスです。書き方については、良い印象をあたえるためにも次の点に注意しましょう。

- ① 記入には黒インク（またはボールペン）を使用する。
- ② 文字は必ず楷書で書き、くずし字や略字を書いてはいけない。
- ③ 誤字、脱字のないように注意し、たとえ1文字のまちがいでも書き直すようにする。
- ④ 数字は、算用数字を使用する。
- ⑤ 資格については、正式名称で記入する。
- ⑥ 趣味については、興味をもって持続しておこなっているものをあげ、面接で聞かれても十分に答えられるものを記入しておく。
- ⑦ 所属クラブなどは、在学中に体験したものをすべてあげる。
- ⑧ 志望の動機については、自分の意志を固めた動機や、働きたい気持ちをはっきりと打ち出して書く。

4. 試験の内容

会社により選考の方法・基準は異なるが、次の方法をいくつか組み合わせて実施することが多い

- (1) 書類 (調査書、履歴書)
- (2) 面接試験
- (3) 学科試験
- (4) 作文
- (5) 適性検査

(1) 書類

企業はどちらかといえば人物本位です。希望者の多い企業では一定以上の成績が必要ですが、特に出欠席(遅刻・早退)、健康、人物などが重視されます。人物は明朗で協調性があり勤労意欲に富む人が好まれます。書類はこれらを判断する材料の一つとなります。

(2) 面接試験

入社試験の中心であり、面接だけを実施して人物を重視している企業もあります。最も重要なものであり、日常生活態度や学習態度が如実に表れるので、普段から礼儀・服装・言葉づかいなどに気を付けておくべきである。

質問の内容

質問されることからは、大きく次のように分けられる。

- 基本に関すること(氏名・住所・通勤経路・時間など)
- 本人自身に関すること(長所・短所・日頃の考え・最近読んだ本など)
- 学校生活に関すること(学校の所在地・校風・教育目標〔個人の尊厳を重んじる、主体的に行動する、自他を敬愛する、勤労を重んじる〕・全校生徒数・男女の比・就職者数・学校生活で最も印象に残ったこと・校長名・部活動で身につけたこと・得意科目・不得意科目・友人数・校章の由来、成績など)
- 職業意識に関すること(社会人になるにあたっての心構え・志望動機・希望する職種・会社に関する知識など)
- 時事問題に関すること(最近の気になるニュースについてなど)

面接でみられること

企業が採用したい人物は明るく協調性があり、健康な勤労意欲に富む人である。そこで面接では「人柄・性格・勤労意欲・表現力・理解力」など、筆記試験では判断できにくい部分をみられる。このため、答えの内容、服装、言葉づかい、動作、声の大きさなどが評価される。

(3) 学科試験

内容は会社によりさまざまであり、同一の会社でも出題者が変わると前年度と異なることも多い。社会人として必要な力を持っているかどうかを問う問題として、一般常識(時事的な問題が多い)、国語・社会から最も多く出題される。但し、その程度は高くなく、中学から高2くらいまでの基礎学力があれば充分である。

(4) 作文

出題傾向は、「就職を選んだ理由について」「学生生活で学んだこと」「将来の夢」など。評価の基準は、次のようなところである。

- 内容がテーマにふさわしいか。
- 文意が通じるか。
- 誤字・脱字・あて字など多くないか。
- 字は丁寧か。